



# 青武台だより

No.196

平成25年3月15日発行

## 目 次

ページ



1. 卒業生・修了生に贈る言葉	
校長	2
教育後援会会長・進和会会長	3
2. 卒業生クラス紹介	4~8
3. 修了生クラス紹介	9~10
4. 各学科卒業研究・指導教員紹介	11~13
5. 専攻科特別研究テーマ・指導教員紹介	13
6. 退職にあたって	14~16
7. 学生の将来と進路	17~18
8. 活躍する仲間	
ソフトウェアコンペティション	19
歯磨きロボットコンテスト	19
平成24年度優秀学生賞	20
平成24年度資格取得者	21
9. 見学旅行について	22~24
10. 校外研修について	24~25
11. 遠足について	26
12. 第18回マグネットコンテスト表彰式	27
13. 福井工業高等専門学校「JOINTフォーラム2012」を開催	27
14. 第4回クラシックコンサート	28
15. 中学生の皆さんへ	
中学校だより 越前市 万葉中学校	29
平成25年度入学者選抜について	29
平成25年度入学者選抜実施状況	29
16. 学園通信	
平成24年度留学生との懇親会報告	30
香港VTC学生来訪	30
平成24年度校長特別賞・校長賞受賞者一覧	31
平成25年度教育後援会総会	31



## 卒業生・修了生に贈る言葉



### 卒業おめでとう

校長 池田 大祐

卒業する皆さん、入学してからこれまで多くのことを学習し、クラブ活動に励み、人格形成に努め、また、各自の人生を自らの力で切り拓いていく力を養ってきたことでしょう。ここに至るまでには色々なことがあったと思います。楽しいことばかりではなく、多くの苦難を経験し、幾度となく挫けそうになったことと思います。様々な試練に耐え、それを克服して、晴れて本校から旅立つ日を迎えることになった皆さんを心から祝福します。

とは言え、皆さんのが無事この日を迎えることができたのは、決して皆さんだけの力ではなく、常に皆さんを支え、励まして下さった皆さんのご家族、ご親族の方々のお蔭であり、皆さんは何よりもこのことに感謝するとともに、本日の卒業の喜びを分かち合っていただきたいと思います。

我が国に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から2年が経過しました。復旧・復興作業は被災直後から国を挙げて行われ、1年前には被災地再生の司令塔となる復興庁も設置され、本格的な取組が進んでいます。しかし、まだまだ十分ではありません。被災地の人々は現在も不自由な生活を強いられています。1日も早く復興が果たされ、人々に再び落ち着いた生活が戻ってくることを願っています。

昨年末には、我が国の製造業就業者数が51年ぶりに1千万人を下回ったことが新聞等で大きく報道されました。その背景には、国際競争の激化による生産拠点の海外移転や人口減、製造業の業績不振による人員削減等があると指摘されています。資源小国のが国は、一貫してものづくりを産業の中心に据えて成長、発展を遂げてきました。その力の源泉に翳りが出てきたと言つていいでしょう。近年の産

業構造や就業構造の変化にも、我が國のものづくりはイノベーションの創出や生産性の向上により何度も脱皮を図ってきましたが、この我が國のお家芸とも言えるものづくりの力が衰退するようだと我が国の将来は決して明るくありません。皆さんには、科学技術創造立国の基盤を支えているという気概を持って、是非我が國のものづくりを一層強靭な体質に作り変えてもらいたいと思います。

これから社会は、新しい知識・情報や技術が様々な分野での活動の基盤となる所謂「知識基盤社会」であると同時に、ダイバーシティーの推進つまり多様性が大きな役割を果たすこととなるでしょう。これまでの日本社会は、全体として同質的、均質的社会でしたが、女性の社会での活躍が進み、また、少子高齢化の進展とともに高齢者の職場での活用が求められ、更にはグローバル化の進行に伴い、外国人の人達と一緒に仕事をすることも次第に普通のこととなってきています。そこでは人々の多様な考え方や文化、価値観がぶつかり合い、統合されることによりダイナミックな創造性が生まれると言われています。皆さん、そうした社会で活躍するためには、専門的な知識や技術の習得は勿論のこと、コミュニケーション能力や多様な文化や価値観を認め受け入れる能力、問題を発見・解決する能力、自分の考えを持ち、主体的に行動する力等も大切になってきます。

皆さんのがこれから社会で活躍するための資質や能力の基礎的な部分は、本校においてしっかりと身に付けてきたと思いますが、今後も、弛まぬ努力を重ね、次代を担う人材として大きく成長されることを願っています。

## 卒業生・修了生に贈る言葉



## 『高専という選択』が正しかったかの答えは?

教育後援会会长

齊藤信宏

本科および専攻科の皆さん。ご卒業おめでとうございます。「皆さんにとって高専という選択はいかがでしたか?」と聞くとほとんどの人が選択は間違っていたかったと答えるに違いないでしょう。しかし、それは学校生活の思い出に対しての回答であり、実際に高専という選択が本当に良かったか?という答えは社会人になって初めて出せるものだと思います。

皆さんは4月から新たな第一歩を踏み出していくことになります。これから社会に出て働くということを少し考えてみて下さい。

実務の世界は経験しないと分からぬことだらけです。企業人になると自分の全ての行動が会社の価値につながっていきます。会社の経営資源は『ヒト・モノ・カネ』と言われており、「モノ」を生み出すのも「カネ」を生みだすのも結局は『ヒト』です。ということは会社にとって一番大事なものはヒトであり、会社の価値はあなたの働きによって変化するということを常に頭の片隅に置いて行動することが必要です。しかし、仕事をしていく上で漠然と不安になる事や行き詰る事が必ず来ると思います。そんな時は一人で悩まず人の助けを得ることも大切です。何かを教えてもらおうと思えば、授業料を支払わなければなりませんが会社の中ではお給料をもらいながら仕事のやり方を教えてもらえます。ですから、仕事でわからないことがあればどんな小さなことでも相談することです。福井高専から約7,000名の先輩方が全国各地で頑張っています。他県の高専出身者を含めるとその数はさらに多くなります。高専を出た者は、後輩が高専出身と聞くとなぜか親近感を覚えきっとよいアドバイスをしてくれるはずです。ですからどんどん利用するのも良いでしょう。最後になりますが、企業の技術者の一人として力が発揮できるよう人に自分を磨いてください。そしていつの日か『高専という選択は、正しかった。』と自信を持って答えられるよう頑張ってください。



## 和して同せず

進和会会长

前川忠博

本科及び専攻科の皆様、ご卒業おめでとうございます。

進和会(同窓会)を代表しまして、ご卒業をお慶び申し上げるとともに、これからのご活躍をお祈り申し上げます。

昨年、政情が変わり、経済が良くなるような予感はありますが、これから社会に出られる皆様方はいろいろな不安があると思います。毎年青武台だよりに卒業生に贈る言葉を書いています。今年は『和して同せず』という言葉を贈りたいと思います。『和して同せず』とは、人と協力して調和を保つて行動するが、むやみやたらに人に従ったりはしないほうが良いということ。「和」は主体性を持ちながら、他人と親しく交わり助け合うこと。「同」は、自分の考えもないままに、ただ他人の言動に同調すること。何事も自分の考えを持って行動するということです。今、いじめや体罰が問題となっていますが、みんながこのような考え方になつていれば、このような問題は起こらないのではないかと思います。今まで同じ方向を向いていた学生時代と違い、これからは自分で選んだ会社の中で方向性を見失わず、自分の考えで行動して頂きたいと思います。しかしながら、会社とは人と協力していかなければうまく仕事ができず、調和も非常に大切なことです。『和して同せず』の出展は論語ですが、これに続く言葉があります。『小人は同じて和せず』なるほどと思うばかりです。人生はまだまだ長い、一度や二度の失敗は気にせず、自分の考えた道を信じて歩んで頂きたいと思います。

最後になりましたが、住所等の変更があった時には必ず連絡をお願い致します。

### 【連絡先】

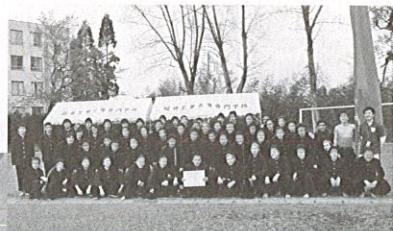
〒916-0064

福井県鯖江市下司町

福井高専進和会事務局

## 卒業生クラス紹介

## 機械工学科



## 母校

機械工学科5年担任 金田直人

私が福井高専へ赴任したのは、今年度卒業される皆さんのが入学した年と同じ5年前になります。今、この5年間を振り返ると中身は濃密ではあります、個人的にはあつという間に過ぎていった気がします。実際には2年間という5年間で半分にも満たない間しか学級担任をしませんでしたが、この2年間の1日1日は、毎日が異なることばかりで非常に楽しく過ごさせてもらいました。体育祭・高専祭・交流会等で共に笑う日もあれば、進路指導の時には、個別にねちねちと説教した日もありましたね…。

皆さんは、今こうして卒業を迎えています。福井高専に入學してよかったです?満足していますか?答えは様々だと思います。ただ一つ言えることとして、中学卒業後の重要な時期に皆さんは福井高専で心身共に成長をしました。皆さんは、これから的人生まだまだ成長をし、進化していくとは思いますが、もし自分を見失いそうになった時は、母校に遊びに来て原点に戻ってみるのもいいのではないうか。

## ロードレーサー

5M 後藤篤志

西暦2012年7月、僕はロードレーサーを買った。20万円弱もする高価なものだったので、両親に頼み込みレポートを提出することでお金を借りて買いに行った。今年の夏は、そのロードレーサーが大活躍した。夏休み中には、卒業研究をしに福井市から学校まで往復したり、先生や友人とツーリングに行ったり、その他にも放課後や休日にトレーニングを兼ね友人達とたくさんペダルをこいた。その結果、夏の1ヶ月半ほどで走行距離が1,000キロを超えた。

ロードレーサーに乗り始めてから、共通の趣味を持った知り合いが年齢に関係なくたくさんでき、先生や友人達とも今まで以上に親しくなることができた。さらに、これから社会に出ていく上で必要なコミュニケーション能力も鍛えることができた。

最後に、ロードレーサーというものから「趣味」を持つことの大切さや楽しさを身をもって実感することができたので、皆さんも何か一つでもいいので、学生の間に自分の趣味を持つことをおすすめします。

## 卒業生クラス紹介



## 電気電子工学科



## 心にコンパスを

電気電子工学科5年担任 河原林 友 美

中山庸子さんの夢ノートのつくりかたという本の中に「心にコンパスを持って歩こう。」という言葉があります。自分がどういう状況であれ、心にコンパスを持って自分が進みたい方向にさえ向いていれば、必ずそこにたどり着けるという思いが表されています。私も随分とこの言葉に励ましてきました。

長い人生には、何事も順調に運ぶ時、不運に見舞われ何をやっても上手くいかない時があるかと思います。上手くいかない時に、その出来事や状況に引きずられて気持ちが腐ってしまうと、人生が悪い方向に行ってしまいます。そういう時は是非、心のコンパスを思い出して、自分の進みたい方向を向いて下さい。そうすれば、きっと自分が思い描いていた場所にたどり着くはずです。そして、心にコンパスを持っていれば、たとえ苦しい状況でも、その意味や助けて下さる人の温かさを知ることができると思います。

## 一期一会

5E 宗沢 優也

5年前、何に関しても未熟であった私がこの福井高専に入学した。そんな私が、この春、社会人としての一歩を踏み出そうとしている。この5年間で自分がどのように変わったかは分からない。ただ言えることは、この福井高専で多くの友人や先生方と出会えたことが今の自分につながっているということである。友人達とは、この5年間、学校生活の中で様々なことを分かち合った。本当に密度の濃い時間を過ごせたと思う。そうした中で、互いに少しずつ大人になっていったように感じる。また、先生方には、担任の先生を中心に進路について幾度となく手助けをして頂いた。そのおかげで、将来の方向性を明確にすることができた。

来年度からは、社会人となり、今とはまったく違う環境での生活になる。この福井高専で様々な人達と出会い、多くのことを学んだように、新しい環境になってもそこでの出会いに感謝し、これからも勉強し続けたいと思う。そして、エンジニアの一人として少しでも社会貢献できる大人になりたい。

最後に、これまで私の学校生活を支えてくれた友人や先生方に感謝すると共に、陰ながら様々な場面で応援し続けてくれた親にも感謝を申し上げて、学生の言葉とする。

## 卒業生クラス紹介

## 電子情報工学科



## 大航海時代

電子情報工学科5年担任 青 山 義 弘

「大航海時代」というと今から500年くらい前の時代でしょうか?当時の人々は新大陸を求めて大志を抱いて大海原に船出したんですね。

混沌としている現代において、皆さんの卒業は私から見るとめでたいことであります、大変な世の中に送り出すといった不安もいっぱいあります。私が社会に出るころはまだ、「よらば大樹の陰」的な「大企業に勤めておけばまずは安心」といった時代でした。

しかし、現代はそういう大企業でも業績悪化と共にリストラを敢行するなど、以前とは様変わりしており、将来安泰といった人はなかなかいないと思われます。

禅の言葉に「一志不退」(いっしふたい)と言う言葉があるそうです。「何事もあきらめないで、ただひたすらに求めれば道は開かれる。」ということで、様々な意見や雑念に迷わされる事はあるが、不退転の心得で挑めば、やがて人生は順風満帆の航路へと船を進めることが叶うという言葉だそうです。

これから皆さんには「責任」も負いますが「自由」もあるのです。これからが人生で一番楽しい時、思う存分楽しみ、素敵なお人生航海を。

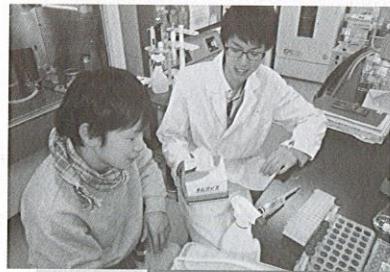
## 賑やかな日常

5E1 和 田 はるか

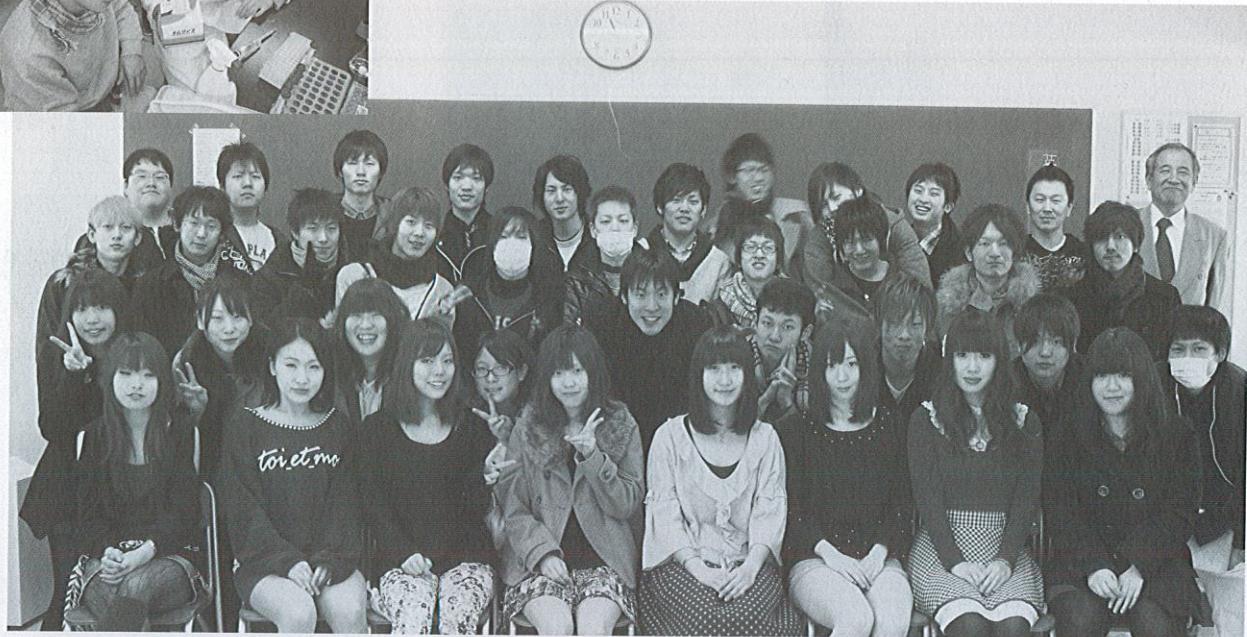
5年間。片道平均1時間半の通学は長く感じたものだが、高専で過ごしたその時間は、あつという間のものだった。同じ中学校からの同級生もいなく、知り合いゼロで飛び込んだ高専生活。周りがこんなにも賑やかな輪になるとは思っていなかった気がする。なんだかんだと言いながら、クラスのみんながお互いに協力して高専の行事を乗り越えてきた。そして普段、みんなが思い思いに騒いでいた休み時間の風景を、微笑ましく思う。

クラスの面々に限らず、この学科や一般科目の先生、それから売店のおばちゃんとも他愛もない話ができる。今思えば、それが何気ない日常だったことがとても嬉しい。時には笑顔で、時には苦笑しながら、手を差し伸べてくれた先生たちがいて、友人たちがいて、本当に恵まれた環境だったことに感謝している。4月から社会人という道に進む人も、学生として学び続ける人も、元気に頑張っていってほしい。そしてまた会えるとき、この高専時代のときのように笑いあえることを、楽しみにしている。

## 卒業生クラス紹介



## 物質工学科



## 努力してコミュニケーションをすることが大切

物質工学科5年担任 小泉貞之

ご卒業おめでとうございます。

皆さんの中には、まだ学生を続けるものもいますが、最終的には社会人になります。社会人になると、自分を過信しすぎても問題ですし、極端に卑下するのも良くありません。自分を正しく評価して下さい。そして、直すべき所があれば、直すようにする謙虚な姿勢が大切です。新入社員のときは、少々失敗しても周りがカバーしてくれますが、年を重ねると誰も指摘してはくれなくなります。また、自分を知る以上に、周りの人を知る必要があります。それには、努力して接觸機会を増やすことが近道です。

3年生の特別活動の時、4年と5年では、やや強引ではあったが「キャリア活動」と称して、時間割に潜り込ませ、毎週50分をクラス活動の時間として活用してきました。諸君は、疑問を抱かず出席し、ポートフォリオ作製を行い、キャリア教育などについての小生の持論を聞かされてきました。試験終了後ごとに何のために反省レポートを書かせるのだろうと思っていた諸君も、就職活動が始まった時に、振り返りが必要であったと気が付いたはずです。自分の見つめ直しは、早ければ早いほど改善ができるのであって、自己分析が進めば、自ずと足りない部分が浮き出できます。卒業したのだから、これからは、自分で振り返りと積極的なコミュニケーションでもって飛躍せんことを祈ります。

## 高専の仲間は一生の宝物だ

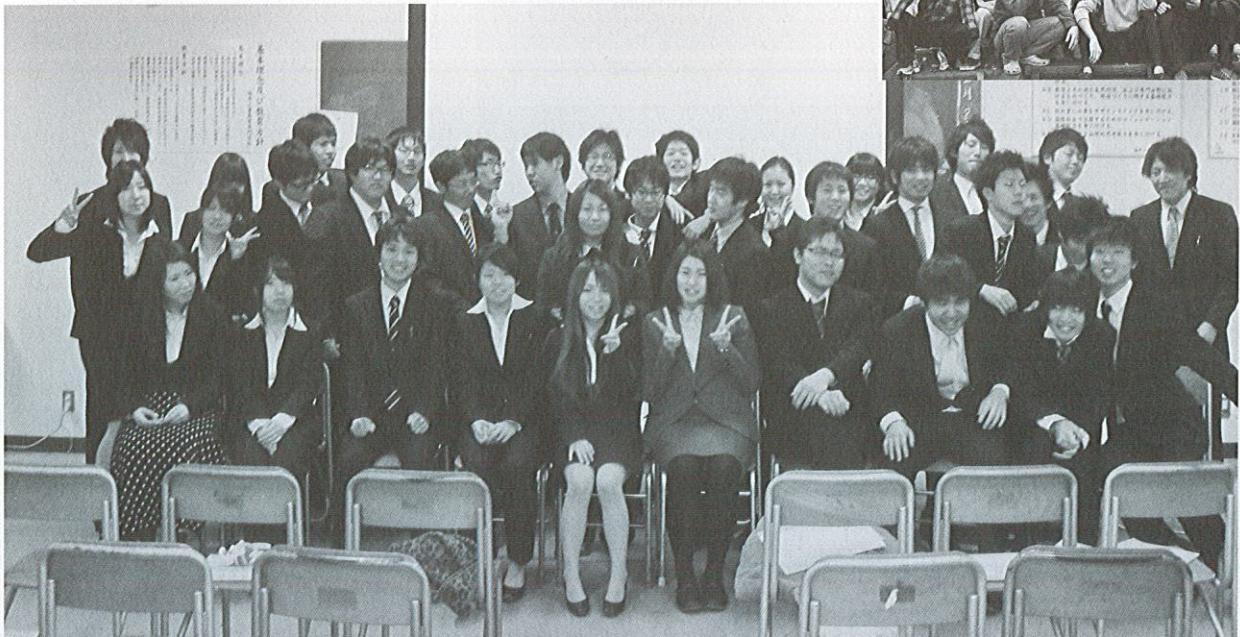
5C 鈴木大地

もうすぐ暖かい4月がくると思うと、桜が満開に咲きほこる西山公園が目に浮かんでくる。思い起こせば、その桃色に染まる景色の中、僕たちは高専に入学し、長いようで短い5年間を過ごした。最初感じたことは、とにかく、高専というところにはすごい奴らが集まっていることである。テストの全科目平均点が80点以上になる学生を数えると、クラスの半数以上であったり、絶対解けるようには見えない問題も軽く解いたりするだけでなく、先生のように親切に友達に教えてくれ、すごく才能があつて、なおかつ性格的にも素晴らしい仲間が多かった。そして、低学年時にビリだった自分に、みんなで必死に勉強を教えてくれた。お陰で無事に卒業できそうだ。ありがとうございます。今でも、全文英語で出された物理化学のテストを思い出し、そのようなとき、挫けそうになる自分を、支えてくれた友達の顔を思い出す。僕の宝物の仲間に感謝したい。決して忘れない。

その恩を返す暇もなく卒業式を迎えるわけだけど、自分を支えてくださった皆様へ、本当に感謝します。4月からは、一社会人として日本の未来を支えていきます。みんなとお互いちょっと遠くなってしまうけれど、「小泉先生ありがとうございました会」を開きましょう。そのときは、自分に任せてください。なってたって、悠志会賞を頂くのですから。それまで元気で。さようなら。自分の10代を、高専で過ごさせて本当に良かったし、この5年物質工学科の仲間に巡り合わせて、自分はとても幸せだった。

## 卒業生クラス紹介

## 環境都市工学科



## 自分づくりの第一歩

環境都市工学科5年担任 江 本 晃 美

5年前みなさんと私は福井高専に入学（赴任）しました。あれから私たちはどのくらい成長したのでしょうか。（私は少し雪に慣れたかもしれません。。。）自分自身の高専卒業を振り返ってみると、大学進学という新しい出会いにワクワクすると同時に、高専5年間の友人や先輩・後輩から離れて、また一からの人間関係づくりが始まることが楽しみでした。（実はちょっと不安でした）それからは教員になるという自分のビジョンを実現させていくことに夢中でした。みなさんも5年後でも10年後でも自分に向けてconceptをつくり、うまくいかないときも自分を支えてくれる意志を内に持つてほしいと思っています。これからは今まで以上にたくさんの経験をしていきますが、自分で考え行動してください。現在はそういう人が強く求められていると感じます。それと諦めないでやってみてください。諦めないことがまず第一歩です。

これまでたくさんのこと話をして窮屈だったかもしれませんのが、1人1人とてもステキでやさしいクラスです。これからはもっと自信を持ってみてください。

卒業おめでとう。

## 経験値稼ぎの学校生活

5B 芹 川 由布子

私は、経験値制度というものを自分で考え、普段の学校生活において実践してきました。経験値制度とは、様々な活動を通して得た経験を数値化し自分に与えるというものです。入学当初、私は目的意識も持たずただ学校生活を送っていました。しかし、学生会や部活動を通して、まずは何でもやってみることが大切だと感じ、人より多くの経験をしようと考えました。これが私の経験値制度の始まりです。課題や過酷なテスト週間さえも経験値化することで、「経験値溜まってる！」と感じ、日々、自分の成長を実感することができました。経験値制度を行ううちに、福井高専はやる気さえあればいろんなジャンルの挑戦ができる学校だと気付きました。私はこの5年間で得た経験値や、その経験を通してできた仲間を大切にし、次のステップでも様々な経験値を積んでいきます。そして、逆境の時こそ成長するチャンスだと捉え何事にも挑戦し続けます。このような意識をもたらしてくれた福井高専の学校生活に感謝しています。

## 修了生クラス紹介

## 生産システム工学専攻



## 楽しくやろう(だけではないですが)

生産システム工学専攻主任 龜 山 建太郎

まずは卒業おめでとう。これから君達は、長年住み（？）慣れた高専を出て行くわけですが、そんな君達にお薦めする事。それは、新しい場所で面白い事を見つけるという事です。既にやりたい事があるという人もいると思います。けれど、それは20年程度の、しかも学校という閉じた世界での経験による物に過ぎません。そんな小さな事に拘泥し、これから興味が持てるかもしれないもっと面白い事を見逃すのは勿体ないと思います。会社という所がやっている事は、それがどんな小さな所帯でもかなり面白いですし、しかもそれは、本学の卒業生が就く仕事で、更に君達には、ある程度の裁量が与えられると思います。その中に、面白い事が無いわけがありません。だから、新しい環境では周囲を観察し、与えられた仕事を一生懸命やってみるということをお薦めします。きっと、楽しい社会人ライフの素材に出会えるでしょう。もちろん、社会人としての義務を果たすことも大切なので、その点努々お忘れなきように。それでは良い旅路を！

## 新たな2年間

2PS 今 浦 大 地

私は、富山高専の本科を卒業して福井高専専攻科に進学しました。2年間同じ場所でもう一度というのも一つの選択ですが、私は他の場所に進学することを選びました。

入学した当初は、初めての一人暮らしや、新たな環境での学生生活に慣れるのに必死でした。授業や特別研究といったことが一気に始まって、今までやってきたやり方とは違うやり方に、最初は戸惑い、慣れていこうとしている間に時間が進んでいったよう思えます。そんな中で本科時代の話をして高専間の違いの様なものを感じ、懐かしむことや、それ以上に驚くことが多くあったと思います。

そんなこんなで専攻科1年が過ぎていき、2年になると、進学や就職が本格的に始まり、それが終われば学習成果報告書、学位試験そして特別研究発表とあっという間だったと思います。

専攻科卒業後は、大学院に進学を選びました。この2年間で自分が何を得て学べたか今はまだうまく言えませんが、次の新たな2年間でそれを活かしてこの2年間が自分にとって良いものだったと振り替えられればと思っています。

## 修了生クラス紹介

### 環境システム工学専攻



#### 辰巳天井

環境システム工学専攻主任 加藤 敏

環境システム工学専攻2年生の諸君、卒業おめでとうございます。

株式市場の格言に「辰巳(たつみ)天井、午(うま)しり下がり、未(ひつじ)辛抱、申酉(さるとり)騒ぐ。戌(いぬ)は笑い、亥(い)固まる、子(ね)は繁栄、丑(うし)はつまずき、寅(とら)千里を走り、卯(うさぎ)は跳ねる」という格言があります。諸君達が旅立つこの2013年は巳年です。巳とは、むろんヘビのことと、古来より、家の守り神や大地の主、あるいはお金を運んでくれる動物として崇められ、世界の神話や伝説などにも頻繁に登場します。同時に、「既に植物が極限まで成長しきった状態を表しており、次の生命が作られ始める時期」などとも解釈されているようです。さまざまな解釈が成されていますが、総じて「転機」を連想させるような表現が目立つようです。諸君達が旅立つにはちょうどいい年ではないでしょうか。

諸君達のご健闘を心から祈念いたします。

#### 長くて、短い高専生活

2ES 内田 翔也

本科に入学した当初は、5年後には他の大学に行こうと思っていたしました。しかし、気が付いてみれば専攻科に進学し、あっという間に2年間（7年間）が過ぎていました。

専攻科での生活で学んだことは数多く存在します。その中でも、他学科の学生と共同でプレゼン発表をする中で学んだ、プレゼンテーション技術やコミュニケーション能力は、今後役立つ機会が増えてくると思います。また、このような機会を与えてくれたり、困っている時には助言を教えてくれたりした、良い先生方に恵まれて充実した日々を送ることができました。さらに、5年間の本科での生活で出会えた沢山の友人に加え、専攻科でさらに多くの友人と出会えたことはとても嬉しいです。

最後に、7年間の高専での生活の中で、お世話をおかげしました先生方や、学生課の方々に心から感謝いたします。今まで本当にありがとうございました。

## 各学科卒業研究・指導教員紹介

## 平成24年度 学科別卒業研究・指導教員一覧

## 機械工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
道場 充 藤井祥太	HPT(高圧ねじり)加工した純鉄の摩耗特性に及ぼすHPT加工回転回数と摩耗試験相手材の影響	加藤 寛敬
松井俊晃	HPT(高圧ねじり)加工により作成したAl-Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 複合材料の摩耗特性	加藤 寛敬
重森晶臺	炭素鋼の摩擦表層の組織・硬さと摩耗特性	加藤 寛敬
山口勘太	斜板式ピストンポンプ・モータにおけるピストン形状による摩擦特性への影響	田中嘉津彦
大野航平 加藤拓郎	弾性変形を考慮した潤滑計算	田中嘉津彦
中川貴史	正方形断面ダクト内における粘弹性流体の二次流れの三次元数值シミュレーション	藤田克志
河野健人	小水力発電用水車の設計と設置に関する研究	藤田克志
野尻紗也香	ものづくり型出前授業による科学技術コミュニケーションを意識した流体実験	藤田克志
佐々木 優 田邊尚己	ディスクフリクション仮燃機における糸経路および糸張力のモデル化	金田直人
長谷川 遼	加工糸における糸形状撮影装置の開発および見かけ糸太さの評価方法	金田直人
尾中哲哉	マルチフィラメント糸における力学特性を考慮した3次元シミュレーション	金田直人
谷内口 洋	ExcelによるZ-map適用型マシニングセンタNCプログラム検証ソフトウエア開発	松尾光恭
嶋川圭祐	熱伝導シミュレーション精度向上のための熱伝達係数の同定－シングフレックス法による最適化－	松尾光恭
三上紘平 山田貴庸	高速フーリエ変換(FFT)とインパルス応答法による振動モード測定装置の試作	松尾光恭
市橋 健	分子動力学法による温度差と固液相変化の関係性の微視的数値解析	芳賀正和
三宅純平	感温液晶を用いた温度場、対流場の可视化実験	芳賀正和
藤澤昂行	シュレーディンガー方程式の動的解析における計算条件の検討	芳賀正和
西澤隆宏 長谷部崇仁	ロボコン用ロボットの3DCG化に関する研究－高専ロボコン2011「ロボ・ボウル」－	安丸尚樹
橋詰健人 山本 翔	フェムト秒レーザーによる窒化された合金鋼のナノ加工と評価	安丸尚樹
石橋一眞 前川隼人	サーボプレスを用いたR曲げ加工のスプリングバック観察	村中貴幸
後藤篤志 土田啓介	しごき式型かじり試験による純チタンの焼付き過程評価	村中貴幸
大橋 望 吉田将太	エコラン競技用車体の製作におけるTIG溶接法の基礎的研究	五味伸之
八田拓樹	エコラン競技用エンジンの開発及び評価法の提案	五味伸之
竹田克真	車体抵抗の評価法に関する基礎的研究	五味伸之
藤沢侑哉 ハフィズ	刃先交換式非軸対称ドリルの摩耗特性に関する研究	千徳英介
傍島亮平 高見瑚太郎	ナノ構造付与切削工具の摩耗特性に関する研究	千徳英介
梅田雄太	水田用自律除草ロボットのモデル化と制御シミュレーション	亀山建太郎
橋本祐樹	水田用自律除草ロボットへの導入を考慮したGPS計測精度向上に関する研究	亀山建太郎
山口直弥	Arduinoを用いたサッカーロボットの製作及びプログラムの開発	亀山建太郎
伊藤涼介	ジャイロセンサの計測精度向上に関する研究	亀山建太郎

## 電気電子工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
青山 梢	フラッシュ蒸着装置の製作に関する研究	山本幸男
石山貴道	マイクロロボットを用いた教育用教材の開発－サッカーブレイヤー生成システムの開発－	河原林友美
漆崎亮平	静電界と拡散電流からなる新型超伝導における電子対のサイクロトロン運動によるエネルギー源の創成	石栗慎一
大久保達矢	ジェスチャーコントロールによる空間手書き文字の即時認識	丸山晃生
岡井章悟	頂点座標接触判定法による仮想楽器システムの構築	丸山晃生
岡田直也	清掃ロボットの開発	河原林友美
奥出陽香	放射線計数回路系の試作	川本昂 前多信博
柿木大輔	非対称交流電界が植物の発芽に及ぼす電界効果	川本昂
勝田真理江	I-systemのiPhone向けアプリの開発	大久保茂
桂 一史	イオン注入を用いた $\beta$ -FeSi <sub>2</sub> ナノ結晶の研究	米田知晃
亀井孝弘	RFスパッタ法によるCuInS <sub>2</sub> /ZnOヘテロ構造の試作に関する研究	山本幸男
川端夢人	Androidアプリを用いた水位観測・警報システムの開発	米田知晃
木内大貴	新型超伝導コイル集合体の創成	石栗慎一
岸下優介	バイオメタルを用いた制御装置の試作	佐藤匡
久保田崇仁	Arduinoを用いた監視カメラの試作	佐藤匡
齊藤繁宣	レベル制御を用いた偶数本のリニアアレーランテナの等サイドローフ指向性決定法	大久保茂
齋藤 朔	手指重心点の極座標変換を用いた指文字認識	丸山晃生
坂本匡平	最適化法を用いた受信アンテナ偏波の最適化	大久保茂
澤 翔吾	格子断面形状を持つ高温超伝導エネルギー貯蔵の高性能化	石栗慎一
清水健市	Kinectを用いた認知症予防が期待できるアプリケーション開発	河原林友美
杉山雄祐	色素増感型太陽電池の開発	川本昂
田中大樹	距離型ファジィ推論法を用いた倒立振子振り上げ制御に関する基礎研究	佐藤匡
谷口唯人	真空蒸着法によるAgInS <sub>2</sub> 薄膜の作製に関する研究	山本幸男
玉木竜二	Kinectを用いたナチュラルユーザインターフェースの考察	河原林友美
中野貴友	マイクロロボットを用いた教育用教材の開発－対戦用フィールドブレイヤープログラム改良－	河原林友美
薄谷崇志	椅子立ち上がり動作におけるkinectを用いた画像計測	米田知晃
林 克紀	周波数スペクトル解析による倍音成分の特徴を用いた楽器判別	荒川正和
前田佳樹	多層力ボンナチューブを用いたペーストレース脳波電極	川本昂
水島 健	遺伝的アルゴリズムを用いた部分探索法による道路標識認識	丸山晃生
水嶋政嘉	CIS系薄膜太陽電池のバッファ層の作製に関する研究	山本幸男
水野弘基	Arduinoとリニアエンコーダを用いた河川災害のための水位計測システムの開発	米田知晃
宗沢優也	「回転型周波数変換装置の提案と検証」	竹本泰敏
山田和希	環境配慮型住宅の提案	竹本泰敏
山中宏祥	制限条件下における最適方策を用いたサーボ系設計	佐藤匡
山根忠晃	計測用Visual Basicソフトの作成	川本昂 前多信博
吉田祥二	周波数スペクトルの基音成分による音高推定	荒川正和
マハムド・スルタ	真空蒸着法によるCuAlS <sub>2</sub> 積層薄膜の作製	山本幸男

## 各学科卒業研究・指導教員紹介

### 電子情報工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
朝倉良平	後方参照を取り入れた最適速度模型による渋滞の数値解析	野村保之
石田亮平	磁界共鳴方式における無線電力伝送の伝送効率向上効果に関する研究	川上由紀
石津良介	周波数選択板によるマイクロストリップアンテナの利得向上効果に関する研究	川上由紀
石丸俊輔	速度弱化摩擦構成則に対するバネ-ブロック地震模型の応答	野村保之
岩瀬良太	トマト収穫ロボットのための画像処理	村田知也
岩堀 淳	シリカガラスの結晶化における不純物分布と失透メカニズムの研究	青山義弘
上辻貴大	MOVERIOの可能性検証	青山義弘
大八木 晋	量子コンピュータにおける量子回路シミュレーション	下條雅史
奥田拓希	FM一括変換方式における劣化要因シミュレーション	西 仁司
角本 壮	メタマテリアルを用いた電磁透明マントの設計に関する研究	川上由紀
加藤雅大	MPPT制御による太陽光での充電システム開発	川上由紀 前川公男
河原正博	撃力 Harper写像における統計的拡散	野村保之
北嶋友喜	無線通信モジュールを用いたセンサネットワーク構築	斎藤 徹
栗田大輔	剛体の運動シミュレーション	下條雅史
小林康太	剛体の運動シミュレーション	下條雅史
齋藤史剛	自律型平行二輪ロボットの無線コントロール	高久有一
坂田臣弥	マルチマークを用いたARによるモデルビューアの開発	青山義弘
笹田直也	OpenSocialを用いたSNS上で動作する地域安全マップシステムの開発	斎藤 徹
佐竹祥羽	組込みマイコンを用いたファイルサーバの構築	高久有一
柴田裕矢	マーカレスARを用いた情報提示システムの制作	斎藤 徹
鈴木優梨	メガネフィッティングのためのAR	村田知也
平等悠介	自律型ロボットの走行制御プログラムの開発	青山義弘
高村浩也	MOVERIOの可能性検証	青山義弘
竹田成佑	知覚と運動の乖離に関する研究	小松貴大
多田 一貴	早期情報教育のための教材iT-eBlocksの開発	蘆田 昇
田畠誉利香	タッチ操作インターフェースを生かした学習環境「ゆびす(Ubith)」の試作	蘆田 昇
玉村 実	知覚と運動の乖離に関する研究	小松貴大
土田純平	四足歩行ロボットの歩容の多様化に関する研究	西 仁司
西尾 力	視線計測装置の制作	小松貴大
西川浩志	日本語入力における最適なキーボード配列の研究	蘆田 昇
畠中康宏	HDLによるNios IIコンピュータシステムの開発	青山義弘
服部翔真	MP3 player/encoder for VC++/C++	川上由紀 前川公男
藤原悠太郎	シンプレクティック積分法によるSturmian問題の数値解析	野村保之
前田憲一	Unityを用いたコード解析による簡易ゲーム開発	村田知也
松井奈々	MPS法を用いた水柱崩壊のシミュレーション	下條雅史
松山麻珠	連続母音におけるフォルマント周波数を利用した母音推定の研究	西 仁司
森國泰平	ゲーム攻略型プログラミング学習教材「めいぶる」の試作	蘆田 昇
柳瀬 翔	四足歩行ロボットの歩行における脚先軌道の自動修正	西 仁司
矢納正浩	地図情報と連携した緊急連絡システムの構築	斎藤 徹
山 亮太	失透試験用気体導入型電気炉の製作と特性評価	青山義弘
山田大輔	グーミフィケーションを用いたe-learningフレームワーク構築	蘆田 昇
和田はるか	音声スペクトログラムの画像解析による話者識別的研究	西 仁司

### 物質工学科

氏名	卒研テーマ	指導教員
青山絵理	アミノセルロースを基材とするポリウレアフォームの合成	松井栄樹
朝倉なつき	マイクロバブルによる試料処理の効果について	小泉貞之
按察竜輝	Bacillus sp. KOSEN株を用いたバイオマテリアルの創出	川村敏之
内田昂輝	植物カルス培養の学生実験における最適化	上嶋晃智 高山勝己
大久保晋太郎	放射線実験の学生実験への導入の検討	小泉貞之
小田佳澄	材料工学実験におけるベンゼンフリー化の検討	加藤 敏
門 早織	近接気化型CVD法による酸化チタン系薄膜の合成	西野純一
加茂雄大	ヒト大腿骨の皮質骨断面形状解析	平井恵子
木村 峻	種子発芽に対する電界印加効果	高山勝己
後藤 健	微生物燃料電池のアノード極構築のための基礎的検討	高山勝己
近藤和葵	材料工学実験におけるベンゼンフリー化の検討	加藤 敏
鳴崎友香	磁性流体作製方法の簡略化	津田良弘
島田聖成	シリコン回路パターン基板へのめっき配線形成プロセス	常光幸美
鈴木大地	シアヌル酸クロリドを用いた多座配位子の合成	松井栄樹
高橋久美子	磁性流体作製方法の簡略化	津田良弘
田中めぐみ	外部配位サイトを有するフタロシアニン化合物の合成	松井栄樹
谷口友悟	Bacillus sp. KOSEN株の外分泌とコロニー形成機構	川村敏之
坪田果菜子	有用微生物群を用いた河川の浄化	上嶋晃智
中野あり紗	有機溶媒中での硫化インジウムの電解析出	西野純一
中野啓子	磁性流体作製方法の簡略化	津田良弘
西山悟史	ウェットプロセスによるシリコンインターポーラー形成技術に関する基礎研究	常光幸美
樋口洋平	バイオマス発電廃棄物の有効利用	小泉貞之
眞柄拓郎	システインを含む多座配位子の合成	松井栄樹
眞柄亮兵	有機化学実験へのTLCの導入	津田良弘
三井浩彰	竹粉の悪臭物質に対する脱臭効果の調査研究	小泉貞之
毛利浩亮	ウェットプロセスによるシリコンインターポーラー形成技術に関する基礎研究	常光幸美
森本康介	有機化学実験へのTLCの導入	津田良弘
山内惇也	ジプロモビフェニル分解菌の特性解析	高山勝己
山口一真	有用微生物群を用いた河川の浄化	上嶋晃智
山崎有紗	シリコン回路パターン基板へのめっき配線形成プロセス	常光幸美
山田和希	近接気化型CVD法による酸化チタン系薄膜の合成	西野純一
山本 尚	植物カルス培養の学生実験における最適化	上嶋晃智 高山勝己
山本萌恵	有機溶媒中での硫化インジウムの電解析出	西野純一
吉田仁志	Bacillus sp. KOSEN株の外分泌とコロニー形成機構	川村敏之
吉田祐貴	フィトキラチン表層発現酵母の重金属耐性	高山勝己
綿谷崇志	Bacillus sp. KOSEN株を用いたバイオマテリアルの創出	川村敏之
BATVAYAR BAATARSUREN	デンプン系廃棄物からのバイオエタノールの生成	小泉貞之 吉村忠与志

## 各学科卒業研究・専攻科特別研究テーマ・指導教員紹介

## 環境都市工学科

氏名	特研テーマ	指導教員
中野 優人	VBAを利用したE積分プログラム	阿部 孝弘
前田 尚哉	コンクリートを対象としたき裂開口変位とき裂進展深さの関係	阿部 孝弘
鶴渕健太朗	建築系内容を取り込んだコンクリート構造学のシラバス作成	阿部 孝弘
中車 恭明	子どもまちなかネットワークの提案	江本 晃美
林 涼	鯖江市における都市公園の整備のあり方に関する基礎的研究	江本 晃美
牧田 司	Maruoka Glocal Engineering Junior High School	江本 晃美
村上 雅俊	Sabae Increase ~定住を目指した増殖する集合住宅~	江本 晃美
田辺泰基	下水汚泥の固形燃料化に関する研究	奥村 充司
堀江まどか	水資源を守り森林を保全する福井県条例作り	奥村 充司
猪島沙帆	熱交換塗料のメカニズム解明に関する実験的研究	香月 壮亮
岸本ほのか	室内の熱負荷削減に関するルーフボンドの実用化可能性の検討	香月 壮亮
小川瑞貴	環境都市としての流域圏の可能性 ~滋賀県東部の流域において~	武井 幸久
永井信明	交流型生活圏の変遷と持続可能な生活圏について -滋賀県高島市について-	武井 幸久
坂本洋輔	環境都市の家・庭図式とエネルギー循環型交流生活圏	武井 幸久
加藤 弥樹 来田 裕平 反保孝太朗 山本 恵夢	三里浜海岸の汀線変化と高須川の河口変動について	田安 正茂
杉田有紀 相馬将智 田坂朋也 山岸孝彰	防災ゲームの開発とその検証	辻子 裕二
平野潤一	福井県におけるサイクリングロードマップ基盤の整備	辻野 和彦
福尾尚也	ALOS PALSARのInSAR処理によるDEM生成	辻野 和彦
山本 陸	UAVを用いた現地調査支援に関する研究	辻野 和彦
椎葉圭士 竹内聰宏	日野川と足羽川における砂州の観測と砂礫移動について	廣部 英一
五十嵐理莉 山田悠貴 山本真希	天日乾燥浄水汚泥の水分滲出特性と含水減量による安定処理効果	山田 幹雄
臼井翔梧	丸太の特性を生かした液状化対策工法に関する研究	吉田 雅穂
小林俊晴	軟弱粘性土に建設される道路構造物を対象とした丸太を用いた地盤補強技術に関する研究	吉田 雅穂
芹川由布子	既設の戸建て住宅を対象とした丸太を用いた液状化対策技術に関する研究	吉田 雅穂
野坂直樹	丸太と角材を併用した液状化対策技術に関する研究	吉田 雅穂

平成24年度 専攻科  
特別研究テーマ・指導教員一覧

## 生産システム工学専攻

氏名	特研テーマ	指導教員
浅野 純	直接窒化法によるAINナノ結晶の形成と結晶の光学的特性	川本 昂
安藤哲也	マイクロバブルを含んだ液体燃料の溶存酸素と火炎温度	藤田克志
今浦大地	MPS法によるダム崩壊問題の数値計算	藤田克志
宇都宮国人	HPT(高圧ねじり)加工した純Feの摩耗特性	加藤 寛敬
壁下竜也	倒立振子の制御に関する数値シミュレーション	高久有一
小林勇人	赤色・青色LED光源を用いたミツバの水耕栽培システムに関する研究	米田知晃
中村孝史	バネーブロック模型における地震発生の統計的性質	野村保之
藤澤和人	フェムト秒レーザーによりステンレス鋼窒化層表面に加工されたナノ構造の評価	安丸尚樹
前田理貴	板材のR曲げ加工におけるスプリングバック変形挙動	村中貴幸
水間庸介	災害時の情報収集をサポートするシステムの構築	大久保 茂
三田村健司	マイクロロボットを用いた情報教育用教材の開発	河原林友美
宗澤和也	回転を伴って往復運動するピストンとシリンド間の摩擦	田中嘉津彦
安岡俊哉	稻作における小型除草ロボットの開発と自律化	龜山建太郎
山本慎司	単眼視動画像による空間手書き文字の認識	丸山晃生
山本彬裕	加熱を伴う化学反応による自然対流の数値解析	芳賀正和
BAYARSAIKHAN OCH	JAVAネットワークプログラミングによる通信速度の測定	高久有一

## 環境システム工学専攻

氏名	特研テーマ	指導教員
朝倉紀生	乳化共重合反応に及ぼす難水溶性モノマーの溶解度の影響	加藤 敏
内田翔也	乳化重合反応に及ぼす連鎖移動剤の溶解度の影響	加藤 敏
小池 慧	持続可能な資源・エネルギー循環型の交流生活圏	武井 幸久
向當綾子	大腸菌二トロ還元酵素細胞表層発現酵母の創製と活性評価	高山勝己
酒井 聖	乾燥おからの有効利用に関する研究	上島 晃智
戸田圭哉	バイオエタノール生成のためのトリコデルマ菌の育成	高山勝己
成田和磨	軽焼マグネサイト添加による廃石膏ボード含有フッ素の溶出抑制効果	山田 幹雄
村松実弥子	製紙廃材を利用したシックハウス症候群対策用機能性ふすまの開発	上島 晃智
脇本貴仁	防災ピクトグラムの視認性向上に関する研究	江本 晃美

## 退職にあたって



### 高専という不思議な空間に感謝

一般科目教室  
(人文社会科学系) 萩野繁春

驚かないでください。写真は、1980年代中頃のものです。最初の担任にプラスバンドの顧問といった時代のものです。といえば、今やこの時代の学生の子供さんが高専の学生として頑張っています。昔を振り返るのもなんですが、高専は不思議な空間でした。学生諸君は、私の話に上手にのってきてくれました。赴任して、ある一軒家に住んでいたのですが、梅雨時になるとナメクジの総攻撃をくらい、夜な夜な布団の周りに出没。寝不足気味。電気科の学生に話をすると、それがネタとなり、ラジオで流れることに。

1983年、2年目に担任の仕事をいただき、電気工学科41名と時間を共にすることに。この年に今の低学年棟が完成し入居した最初でした。思い出深い彼らで、最近、ある学生の製図用T定規を処分させてもらいました。30年も部屋にありました。朝、家からの電話。それで3ヶ月余り、ほぼ毎日迎えに行くことに。当然自転車で。これが担任の仕事かと。いやこれでいいのかと自問自答。

考古学が専門の私は、データ処理に興味をもっていたので、高専では、大いに刺激をもらいました。特にコンピュータ。最初手にしたパンフレットがIBMの5550。びっくり。なんと百万以上の代物。とても。で手にしたのがNEC98。それでも50万近くはしたかと。マックが欲しかった。あのタワー型。90年代に入ってついにパワーマックを手に。高かつたですよ。フリーズフリーズ。でも楽しかったですね。

7千名近くにものぼる学生諸君。いろいろとご指導いただいた教職員の方々。感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。



### ショートショート

機械工学科 松尾光恭

あっという間の2年間でした。2度目の定年退職となります。40年勤務した前職（福井県）とは異なり、2年という短さもあって格別の感慨はあります。唯々大過なくこの間を勤めることができたことに感謝したい。平均寿命80歳の時代、人生の第4クオータを、わが母校である福井高専でスタートできたことにも感謝したい。とはいえて60歳も過ぎて加齢からくる応分のガタとつきあいながらマイペースで過ごさせていただきました。当初の抱負は、前職40年間の研究生活で得たいろいろなノウハウを学生たちに伝えられればとの思いでしたが、どれだけ達成し得えたかには忸怩たるものがあります。また授業以外の校務にも多少関わらせていただき、教員というのもなかなか大変な職業だと、これまで「隣の芝生」的にみてきた思いが変わりました。日常的な体育祭や高専祭などから、何年か毎に主管が回ってくる北陸地区高専大会、ロボコンなど非日常的なことにもめぐりあうなど短い間にいろんなことを凝縮して体験できた気がします。この程度のことでは教員生活の大変さはわからない、担任や部活の顧問、もっと大変なことはいっぱいあるのだと思います。一方、40年間走り続けてきた研究はといえば、一旦減速停止してしまえば、再び加速するには時間も然ることながら、パワー不足を実感しました。ともあれ、短い間でしたありがとうございました。2年間と超短期間の教員がいたことを、記憶の片隅にでも憶えていていただければ幸いです。

**退職にあたって****ランニングのように駆けてきました**

電子情報工学科 蘆田 昇

福井高専での教員生活、ランニングをずっとやつてきたように駆け抜けてきました。25年前の4月、電子情報工学科1期生の入学と共に、着任しました。このクラスを3年生から担任し、クラス運営、工場見学旅行、インターンシップ、就職進学の進路指導などなど卒業式を終えるまで、まったくの手さぐりの毎日でした。一期生の担任であったことは、電子情報工学科の歴史と伝統の最初の1ページに名前を残せたということで誇りに思っています。

また、25年間の大半を総合情報処理センターの運営に関わってきました。教育用システムのパソコンが学生諸君に不便をかけていなかとか、電子メールはちゃんと使っているかとか、校内LANは大丈夫かとか、日々気にかけていました。情報教育環境とネットワークのインフラ整備に少しでも貢献しようという姿勢を貫いてきましたが、自分の持っているスキルを少しでもお役に立てることができたかなと思っています。

学科のことや総合情報処理センターのことを高度情報化社会の進展、世の中のICT化、教育のICT化という追い風を受け続けてやってこれました。趣味とするランニング同様に25年間、追い風も逆風も受けて完走です。無事完走できた高専という環境と自分の体に感謝しています。

**青武台に通った39年間**

環境都市工学科 廣部 英一

昭和45年に土木工学科が増設されて、私は、昭和49年に6人目の教員として土木工学科助手に採用されました。2代校長の木村毅一先生の面接を受けたことを昨日のように覚えています。初年度の私は5年生より5才年上で、製図・工業外国語・情報処理等の授業と測量実習を乏しい知識のみで担当しました。教室での授業シーンが夢の中の出来事のようです。

明治期、当時の日本では利根川・淀川に次ぐ最重要河川の一つであった九頭竜川に明治33年（1900年）に連続堤防の改修工事が着手され、平成12年（2000年）に九頭竜川は治水百周年を迎えました。記念事業の一環として「九頭竜川流域誌」が発行され、私も編集委員に加わる機会を得ました。流域誌の発行は私が50才の時で、九頭竜川の地形地質・人と川の歴史・近代現代の河川工事等を丹念に精査できたことは、福井高専で水理学・河川工学を看板にして仕事をしてきた私には意義深いことでした。

その時に思ったことは、十年一昔というが、わずか百年間の出来事でも記録に残さなければ忘れ去られていくこと、一方、名も残らない多くの先人の苦労の積み重ねによって現在の九頭竜川の河道が形成されたことです。私の在職39年間を振り返ると、福井高専に貢献できたという実感も実績もありませんが、毎年、若くて優秀で基本的に明るく素直な多くの学生と一緒に、高専での生活を送れたことは幸せでした。卒業生名簿に載れなかった学生、卒業生名簿が空白になったままの人も、元気に活躍していることを祈ります。

## 退職にあたって



**旅立ち**  
教育研究支援センター  
第1技術班班長 木村 操

この度二度目の卒業を迎える事になりました。何れも低空飛行の旅立ちで、唯唯恥じ入るばかりです。

丁度40年前は、第一次オイルショックの真只中でしたが、その反省を踏まえ自動化・省力化等技術革新の盛んな時代でした。その後高度成長の名の下活気溢れる時代が続きましたが、何故かしら2度の倒産の憂き目にあい、縁あって昭和60年に技術職員として、母校に採用されました。

以来、実習工場一筋に勤務し、主に溶接と鍛造を担当させて頂きました。当時は実験装置や体育器具の製作依頼が多く、共同研究のお手伝いも致しました。卒業研究においても、数々の独創的なテーマの製作支援に参加出来て、非常に喜ばしく思っています。

実習工場は機械工学科に属していますので、勿論その教員や学生との付合いは深い訳ですが、前身が庶務課実習係だった為、事務系職員や他学科の先生方ともお付き合いがありました。学校設備の営繕や、論文研究の装置製作等興味深い体験もよい思い出の一つです。

最近は、海外出張・海外勤務もさほど珍しくない国際化時代となりました。物作りを中心とした我が技術立国日本も追随せざる得ない定めなのであります。入学時に進路を決断する時の社会情勢を予想するのは、非常に困難ではありますが、高専の就職に対する優位性は健在です。又、担任をはじめとした手厚い進路指導も特筆すべき事項かと存じます。

最後に、福井高専の益々の発展と、教育研究支援センターのご奮闘をお祈り申し上げます。



**退職にあたって**  
教育研究支援センター 齋藤弘一

本当に早い。あっという間に定年。人生の2/3を福井高専で過したことになる。思い起こせば懐かしい事ばかりです。

電気工学科に勤めたときには、私より1つ年上（中には2つ年上）の5年生、また中学時代の同級生も居ました。勤めて1年間は、あまり関わることはありませんでしたが、それでも緊張しました。もう、彼らも定年退職。中には役員となって会社に残って居るのであろうか？今では、自分の子供より年下の学生ばかりになってしまいました。

当時を振り返れば、電卓という物は非常に高価であり、ましてや関数電卓などとんでもないこと。その後デジタル技術、半導体製造技術が発展しパソコンが始めたのです。N88Basic、MSDOS、dir、files 書いている自分も懐かしい言葉です。このような時代、また環境下にいたため、今では苦にせず使えるように成りましたが、いろいろな設定、フリーズした時は手も足も出ずお手上げです。今では、パソコンも家電製品となり、安価で我々の生活には欠かせない物になり、携帯電話の普及率も95%にもなりました。情報社会といわれて久しい今日、インターネットの飛躍的発展により、多くの情報が放出され我々はその中から選ばなければなりません。ひとつ間違えばニュースでも分るように、人生を狂わせてしまいます。

情報の選択は、人（情報）に惑わされることなく適正、適確（的確）に選びたいものです。

最後になりましたが、福井高専の今後のご発展と皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたします。

## 学生の将来と進路

### 平成24年度 進路内定状況報告

本科生の進路には就職と進学（専攻科進学と大学編入学）があり、就職希望者の割合が数年前は半分程度であったが、最近は平成21年度47%、22年度53%、23年度58%、そして今年度は63%と増加傾向を示している。これは進学が難しくなったためではなく、大学生の厳しい就職活動が社会問題化し、不況下でも比較的好調な高専で、それほど苦労せずに就職を決めたいという学生や保護者が増えているためと考えられる。また、経済的な理由から就職に変える学生も増加している。

さて今年度の本校の就職状況であるが、超円高、欧州経済危機、日中間の領土問題等、厳しい経済状況が続いているが、東日本大震災による就職活動の混乱が収まり、県外企業からの求人が緩やかな増加に転じ、内定状況は昨年度よりやや改善傾向を示すようになった。就職先の県外と県内の割合は、県外が65%と多く、最近この傾向が続いているが、県内の求人が県外ほど回復していないことも関係していると思われる。電力会社への内定者は11名と多く、原発事故の影響はあまりなかったと考えられる。なお、求人増加の背景には、団塊世代の退職者増に対応して企業が技術力の継承を行うために、実践的な技術者教育を受けた高専生が期待されていることも関係している。しかし、今年度も求人を出しても優秀な学生がいれば採用するという企業が多く、内定を得るまでに複数の企業の採用試験を受ける学生が見受けられた。特に自己PRの内容が乏しく、コミュニケーション力が弱い学生が苦戦している。

進学に関しては、大学編入学は例年と同様に両技術科学大学、福井大学、金沢大学が多いが、今年は難関の大坂大学と筑波大学に4名ずつ合格してい

進路指導委員会委員長 安丸尚樹

る。5年生における大学編入学率は大体例年通りであるが、専攻科への進学率が減少しており、専攻科希望者が就職に変更したと思われる。専攻科は授業料が国立大学の4割強と経済的負担が少なく、また同じ環境で2年間落ち着いて研究ができ、精神的負担が少ない。修了時の進路についても、40倍強と高い求人倍率であり、本校教員が本科生と同様に就職の指導を行っている。さらに研究を続けたい場合は大学院への進学が可能であり、今年度は3割強の学生が大学院へ推薦で合格している。特に編入後大学4年での就職が厳しい状況であると比較すると、かなり有利になっている。本来、技術の高度化・複合化に対応できる技術者になるためには、さらに進学し幅広い知識を身につける必要があり、安易に就職に流されないよう慎重に進路を判断してほしい。

本校では、相対的に就職の方が厳しさを増していることから、就職に力点を置いたキャリア教育を推進している。特に、合同企業説明会と本校用「求人票・掲示板閲覧システム」は他高専で実施例が少ない。前者の説明会は2年前より実施し、今年度は90社の企業が参加し賑わった。また、後者の求人システムでは、パソコンや携帯から就職情報を入手することができ、就職活動の利便性が向上した。その他、4年と専攻科生には、就職対策講座を系統的に開催した。このような活動を行っているが、基本は低学年時から、学生自らがキャリア形成を意識して行動し、採用試験時にコミュニケーション能力や自己PRで困らないようにすることが一番の対策と考えられる。

最後に学生の進路指導にご尽力された関係教職員のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

### 平成24年度 進路内定状況

平成25年3月8日現在

学科	区分	卒業・修了予定者数	進学希望者数	内定者数			未定者数	就職希望者数	内定者数		未定者数	その他
				大学・大学院	専攻科	専門学校			県内	県外		
本 科	機械工学科	41 (1)	18 (1)	11	6 (1)	1	0	23	7	16	0	0
	電気電子工学科	36 (2)	13 (1)	11 (1)	2	0	0	23 (1)	4 (1)	19	0	0
	電子情報工学科	42 (5)	16 (1)	11 (1)	5	0	0	26 (4)	10 (3)	16 (1)	0	0
	物質工学科	37 (12)	10 (1)	8 (1)	2	0	0	26 (11)	10 (5)	16 (6)	0	1
	環境都市工学科	34 (10)	13 (5)	10 (4)	3 (1)	0	0	21 (5)	10 (3)	10 (1)	1 (1)	0
	小計	190 (30)	70 (9)	51 (7)	18 (2)	1	0	119 (21)	41 (12)	77 (8)	1 (1)	1
専 攻 科	生産システム工学専攻	16	5	5			0	10	6	4	0	1
	環境システム工学専攻	9 (2)	4 (1)	3 (1)			0	5 (1)	2	3 (1)	0	0
	小計	25 (2)	9 (1)	8 (1)			0	15 (1)	8	7 (1)	0	1
合 計		215 (32)	79 (10)	59 (8)	18 (2)	1	1	134 (22)	49 (12)	84 (9)	1 (1)	2

※表中の( )は女子数で内数 ※大学・大学院には短期大学も含む

## 学生の将来と進路

### 平成24年度 大学編入学試験・高専専攻科入学試験合格状況

平成25年2月12日現在

大学等	学部等	学科		機械工学科		電気電子工学科		電子情報工学科		物質工学科		環境都市工学科		合計	
		推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
千葉大学	工学部				1							1		1	1
山梨大学	工学部		1												1
信州大学	経済学部								1						1
筑波大学	情報学群				1		3(1)								4(1)
長岡技術科学大学	工学部		1	1	3					1	1			2	5
電気通信大学	情報理工学部				1										1
金沢大学	理工学域	3			2	1						1(1)	4	3(1)	
福井大学	工学部	2		1(1)		3	2	1	2	1			8(1)	4	
岐阜大学	工学部	1	1		1						1		2	2	
豊橋技術科学大学	工学部	2		1	1	2	3		2(1)	3(1)			8(1)	6(1)	
三重大学	工学部	1			1								1	1	
大阪大学	工学部									1					1
	基礎工学部				2		1								3
和歌山大学	システム工学部				1										1
岡山大学	工学部							1						1	
広島大学	工学部					1									1
九州大学	工学部									1					1
滋賀県立大学	環境科学部											1(1)		1(1)	
天理大学	人間学部										1(1)			1(1)	
福井高専専攻科	生産システム工学専攻	5(1)		1(1)	5	2	4							8(1)	9
	環境システム工学専攻								1	1	1(1)	2		2(1)	3
津山高専専攻科	機械制御システム工学専攻		1												1
神戸高専専攻科	機械システム工学専攻		1												1
合計		14(1)	5	4(1)	20	8	13(1)	4	8(1)	9(3)	4(2)	39(5)	50(4)		

※表における合格者数は延べ人数を表す。( )は女子で内数。

### 平成24年度 大学院入学試験合格状況

平成25年2月12日現在

専攻 大学院	生産システム工学専攻		環境システム工学専攻		合計	
	推薦	学力	推薦	学力	推薦	学力
金沢大学大学院自然科学研究科		1	1		1	1
福井大学大学院工学研究科			2(1)		2(1)	
名古屋大学大学院工学研究科		1				1
豊橋技術科学大学大学院工学研究科		1				1
北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科	2				2	
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科		1				1
合計		2	4	3(1)	5(1)	4

※表における合格者数は延べ人数を表す。( )は女子で内数。

## 活躍する仲間

## ソフトウェアコンペティション

4EI 小濱 雄太  
石田 雄登

ふくいソフトウェアコンペティションに参加された、石田さんと小濱さんにインタビューしてみましょう。

—どういった作品を応募したのでしょうか？

**石**「苗の植え付けから、脱穀まで、稻作について学べる教育向けのゲームです。季節に応じた水の管理や虫対策など大変なことばかりなのです。米農家の方の苦労が分かります。」

**小**「米を育てるだけでなく、様々な品種を育てる楽しみもあります。2012産の「米の食味ランキング」で初のトップを獲得した「森のくまさん」だって育てられちゃうのですよ。ちなみに、福井産ハナエチゼンも初の最高ランクだったようで、うれしいですね。」

—なるほど、おもしろそうですね。それで結果はどうだったのですか？

**小**「残念ながら、入選しませんでした。クラスの発表では、好印象だったのですが、そこまで甘くありませんでした。」

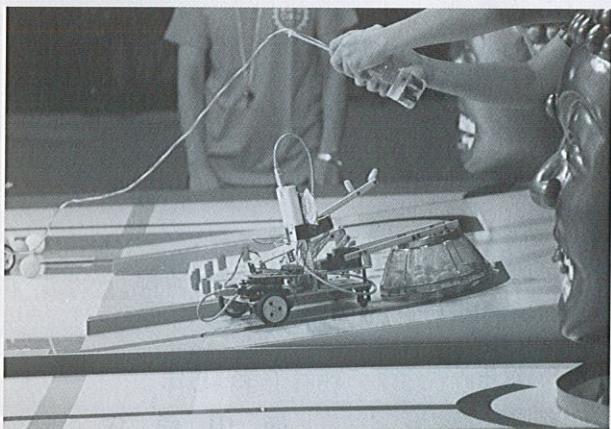
**石**「現実も米作りも、そう上手くはいかないものですね。」

—ありがとうございました。

## 歯磨きロボットコンテスト

4EI 青池 啓太

私たちは、創造工学演習という授業の一環で昨年の夏休みに勝山の越前大仏で開かれた歯磨きロボットコンテストに参加しました。私たちのグループはArduinoというマイコンとxbee無線通信を使ったラジコン操作のロボットでコンテストに参加しました。このロボットは演習の時間と夏休みを合わせて約3ヶ月かけて製作しましたが、完成したのはコンテストの前日で、いきなり本番を迎える形となってしまいました。結果は初戦敗退となってしまいましたが、小学生の子たちに興味を持ってもらい、福井高専の名前をアピールできたい機会となりました。



## 活躍する仲間

### 優秀学生賞

日本機械学会

畠山賞

機械工学科5年

藤井 祥太



計測自動制御学会

北陸支部

優秀学生賞

機械工学科5年

伊藤 涼介



電気学会北陸支部

優秀学生賞

電気電子工学科5年

杉山 雄祐



(社)日本電気技術者協会

北陸支部

優良卒業生

電気電子工学科5年

青山 瑛



映像情報メディア学会

北陸支部

優秀学生賞

電気電子工学科5年

岡井 章悟



電子情報通信学会

北陸支部

優秀学生賞

電子情報工学科5年

北嶋 友喜



情報処理学会北陸支部

優秀学生賞

電子情報工学科5年

松山 麻珠



日本化学会近畿支部

優秀学生賞

物質工学科5年

山本 尚



日本化学会近畿支部

優秀学生賞

物質工学科5年

西山 悟史



福井高専工業化学科・

物質工学科同窓会

悠志会賞

物質工学科5年

鈴木 大地



全国高専土木工学会

近藤賞

環境都市工学科5年

小川 瑞貴



福井高専土木工学科・

環境都市工学科同窓会

翔士会賞

環境都市工学科5年

小林 俊晴



独立行政法人

国立高等専門学校機構

理事長表彰

生産システム工学専攻2年

浅野 純



教育システム情報学会

学生研究発表会

優秀賞

電子情報工学科5年

多田 一貴



## 活躍する仲間

## 平成24年度 資格取得者一覧 (速報・判明分のみ)

本科生

資格名	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科	氏名	学年学科
基本情報技術者試験	小濱 雄太	4EI	楠 優美子	4EI	濱田 権亮	3EI		
JAVAプログラミング能力認定試験	横山さくら	3EI						
工業英検3級	中西 朋也	4EI	福山 恵史	3EI				
英検準2級	小濱 雄太	4EI						
危険物取扱者(乙種全類)資格試験	森山 幸祐	3C	内藤 篤哉	3C	和田 涼	3C	堀川 裕未	2C
	桂田 康平	2C	内田 敦之	3C	飛奈 優花	2C	松葉 悠真	F1
	南嶋 由枝	2C						
危険物取扱者(甲種全類)資格試験	坂川 純梨	4C						
第三種電気主任技術者	漆崎 亮平	5E	前田 剛	4E				
機械設計技術者3級	池田 光希	4M	奥田 豊	4M	澤崎 俊介	4M	田中 大貴	4M
	田中 寛也	4M	橋本 祥史	4M	早水 俊貴	4M	本多 和樹	4M
	前川 恒大	4M	松田 純平	4M	明頓 耕平	4M	山村 達也	4M
	山本 淳	4M	米村 建哉	4M				
CAD利用技術者試験2級	北島 直之	3M	斎藤 治樹	3M	前田 卓真	3M	池田 光希	4M
	一井 壮大	4M	井上 博貴	4M	宇澤 亮太	4M	梶川 大輔	4M
	近藤 剛志	4M	末本 大	4M	天山 雄介	4M	野口 大輔	4M
	橋本 祥史	4M	早水 俊貴	4M	藤井光太郎	4M	明頓 耕平	4M
	山村 達也	4M	山本 淳	4M	米村 建哉	4M	松本 勇太	4B
技術士第一次試験(建設部門)	村中 健彦	4B	蓑輪 圭祐	4B				
測量士補	津田 真衣	3B	川口 真吾	3B	島野 竜成	3B	寺川 礼菜	3B
	長谷川ゆか	3B	森 淳之介	3B	小田桐翔子	4B		
コンクリート検定(中級)	川口 真吾	3B	島野 竜成	3B	朝倉ななみ	3B	高嶋 葵	3B
	小川 瑞貴	5B	山本 恵夢	5B				
コンクリート検定(初級)	津田 真衣	3B	奥出 尚	3B	橋本 涼	3B	東出 裕之	3B
	森 恒太	3B	村中 健彦	4B	五十島康平	4B	大塚 美楓	4B
	小椋 梨加	4B	梶本 陽介	4B	玉木 崇	4B	中井 悠仁	4B
	乗川 文尚	4B	前川 和也	4B	牧野将太郎	4B	山崎 夏菜	4B

## 見学旅行

# 見学旅行について

### 男だらけの見学旅行!!

3M 大岡 真也

初日、僕らは目をこすりながらも早朝のバス停に集合しました。そんな僕らの眠気を一気にとりはらうかのような出会いが待っていました。ツアーガイドのお姉さんが美人だったのです。

バス停からテンション上がりっぱなしの僕らは、見学旅行1つ目の目的地である新日本製鉄様に到着しました。真っ赤に染まる鉄の塊、それを叩く大きな機械音、何もかもが迫力でした。みんなが鉄の塊に魅せられている中、数人はガイドさんを見ていたのは言うまでもありません。

2社目の日本車輌製造様は、普段何気なく乗っている電車を作っている現場を間近で見ることができました。製品一つ一つへのこだわり、大きな部品の迫力ある溶接、多くの技術の集大成が電車にはつまっているのだと感じました。

3社目のJALエンジニアリング様では、飛行機を初めて下から見て、飛行機はどのように飛ぶのか、また整備士の育成はどのようにされているのかを実際に目で見ることができました。

この見学旅行では、4日間をクラス全員で過ごすことでいっそう団結力が深まりました。



### 温泉ってええのお

3E 熊谷 友斗

僕たちは初日、早朝から集まりました。皆見慣れないスーツ姿をからかい合いながら、僕達の見学旅行は幕を開けました。

初日はヤンマー株式会社様と日本特殊陶業株式会社様を見学させて頂きました。ヤンマーびわ工場では主に立型水冷ディーゼルエンジンや立型水冷ガスエンジンなどを生産しています。僕は、ヤンマーに対してコンバインや精米機、トラクターのイメージしか持っていました。しかし、エンジン等の商品の方が売上が多いことを知りました。次に日本特殊陶業株式会社小牧工場を見学させて頂きました。この工場の主力製品はスパークプラグです。普段は見ることの出来ない設備を見学させて頂き、貴重な体験をしました。2日目は愛知県知多半島にある中部電力知多火力発電所とメガソーラー発電所を見学させて頂きました。火力発電所では大量の水を使用しており、敷地内に運河がありました。

3日目はちょんまげ村とスペイン村に行きました。この日の旅館は湯巡り三昧でした。ずっと入っていました。心と体が癒されました。豪華バイキングもありました。

工場見学は本当に自分のためになり、温泉、食事、愉快なクラスメイトに恵まれた見学旅行は一生の思い出です。



## 見学旅行

## 見学旅行について

あなたも好きになる。台湾。

筑波大附属高専 M3EI 狩野拓郎

今回は台北4日間の旅をご紹介します。まず初日は貸し切りバスでトヨタ自動車に向かいます。トヨタでは生産工場の見学後、トヨタ会館にて年代物から最新式まで多くの車を見学できます。車好きの方にはたまりません。続いては中部国際空港に向かいます。今回は特別に普段入ることの出来ない滑走路の中に入り見学することが出来ます。飛行機好きの方にはたまりません。その後、飛行機で台湾に向かい、翌日には台北市内観光とショッピングをします。買い物好きの方にはたまりません。台湾の企業の見学させて頂きます。ここはLEDやディスプレイで有名な企業です。たまりません。3日目は某ジブリ映画の舞台にもなった九份に向かいます。駿ファンの方にはたまりません。龍華科技大学を訪問します。圧倒されます。夕食は台北でも人気の小籠包のおいしいお店に向かいます。グルメの方にはたまりません。最終日は免税店でお買い物。安いものに目がない主婦の方にはたまりません。午後には日本に戻り自由行動。皆さん、「あなたも好きになる。台湾。」はいかがでしたか？旅行のご計画はJTBまで。



福井高専の見学旅行のいいところ

3C 土肥晃也

見学旅行は、学生にとって一番大きなイベントです。福井高専の見学旅行は、他の高校とは一味違います。大きく異なる点は、旅行先を自分達で決められることです。最初はみんなで会社を見学して、クラスのみんなとの交流を深めることもできつつ、自分の仲の良い友達と自分たちで好きな所を回れて、すごい思い出を残すことができました。

ぼくたちは、博多で解散して神戸の三井アウトレットパーク、大阪のアメリカ村へ行くという買い物をするというルートで回りました。福井とは違い、普段では買えないような物や、福井にはないお店があって「やっぱり都会はいいな」と思いました。

もちろん見学旅行なので、会社見学を行った時は気をひきしめ、失礼のないような態度で見学をさせていただきました。将来就職するかもしれない会社で、ぼくたちが専攻している化学を利用した企業であるので、お話を聞かせていただいて、ぼくたちが実験していることの延長線上にはこういった仕事につながるのかと思うと大変有意義なものなのだとと思いました。これから実験の際は、もっと深く理解できるようにしていきたいです。



## 見学旅行・校外研修

# 見学旅行・校外研修について

### 見学旅行について

3B 島野竜成

我々3年環境都市工学科は見学旅行にて清滝生駒道路清滝トンネル工事、海遊館のバックヤード、ハウステンボスの環境施設を見学した。我々が受ける授業の知識が社会に出たときどのように活かされているのか、また今後の授業の中で何を勉強し、何を目指せばよいのかということが大まかにつかめたのでクラスの人たちにとっては良い刺激になったと思う。

また、多くの時間をクラスの人たちと共有することで、誰がどのような顔をもっており、どういう考え方で行動しているのかといったことが見えた気がする。したがって、今まで以上にクラスとしてのまとまりや団結力が増したのではないかと感じた。

今後はインターンシップや卒業研究などを経て就職や進学といった道へ進んでいくことになるので、今回見学旅行で得た教訓を活かし、進路の参考にしたい。また、このクラスで過ごす限られた時間を大切にしていきたい。

最後に、今回の見学旅行に協力してくださった担任、副担任の先生、添乗員の方、費用を出してくださった両親などに感謝を申し上げます。



### 校外研修旅行へ行って

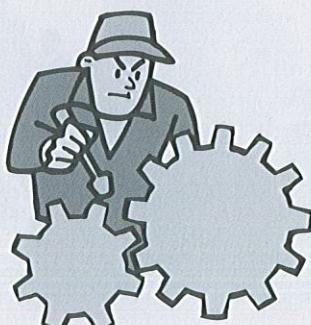
2M 北崎友哉

去年の10月30日、校外研修旅行で滋賀県にある兵神装備株式会社と日本電気硝子株式会社滋賀高月事業場へ行った。工場見学へ行くのは初めてだったため、バスで向かっているときから僕は楽しみでしかたがなかった。この旅行で見学した2社のうち、僕の中では兵神装備のほうが印象に残っている。

兵神装備はモノポンプというポンプを製造している会社だった。モノポンプは普通のポンプとは違って、移送が困難である高粘性液や固体物を含む液、粉末などを変質させずに送ることができるそうだ。そのため、食品、化学、電機など多くの分野で活躍できるそうだ。工場見学をしている時実際に移送している様子を見せていただくことができた。普通のポンプでは移送できないような物質を簡単に移送していたのですすごいと思った。

工学見学の後、福井高専を卒業したOBの方2名との懇談があった。その懇談でOBの方から、高専生の時にやっておくと良いことや就職活動、就職して変わったことなどさまざまな話を聞くことができた。

この旅行で工場見学をしたりOBの方の話を聞いたりして学ぶことが多かった。それらのことを忘れないようにしたい。



## 校外研修

## 校外研修について

## 校外研修と2B

2B 舟野 竣太

私たち、2Bは校外研修で公園や、橋、道路、コウノトリの飼育施設を見学しました。公園では、建設中の駐車場や、野球場を見ました。山を削って大きな建物を建設していたので、すごいなと思いました。現段階では野球場以外は未完成だったので完成はまだまだだと思いました。完成したら必ず完成した姿を見に行きたいと思いました。次に、旧国道8号線と現在の国道8号線を繋ぐ道の建設現場に行きました。現場を見学していると、道路にさまざまな工夫がしてあり、すごく勉強になりました。次は河

野大橋の塩害による橋の欠陥を補修する工事の現場を見学しに行きました。塩害を防ぐ方法として担当者の方は、中に電気を流し鉄の原子をどうしてこうしてと言っていましたが、化学がよくわからない2Bの私たちにとってちんぷんかんぷんでした。しかし環境都市工学科でも化学的なことに詳しくないといけないことが身にしみてわかりました。最後のコウノトリの飼育施設にはコウノトリを愛す女性スタッフがいました。コウノトリになりきっていました。

研修を通して、私たちが学校で学んでいることは重要だということがわかりました。

## 平成24年度 第2学年校外研修先一覧

学 科	研修日	研 修 先	引率者
機械工学科 2年	10月30日(火)	兵神装備株式会社	池田 昌弘 五味 伸之
電気電子工学科 2年		日本電気硝子株式会社 滋賀高月事業場	
電子情報工学科 2年	10月30日(火)	パナソニック株式会社デバイス社	森石 芳周 栗川 優一昂
物質工学科 2年		財団法人若狭湾エネルギー研究センター	
環境都市工学科 2年		株式会社松浦機械製作所	森西 仁貞 斎藤 司徹
		福井テレビジョン放送株式会社	
		株式会社鯖江村田製作所	加藤 清考 津田 良弘
		パナソニック(株)デバイス社 回路部品ビジネスユニット 森田	
		福井県丹南土木事務所 (丹南土木事務所管内工事現場)	柳原 祐治 奥廣 充司
		福井県安全環境部 (越前市白山コウノトリ飼育現場)	柳原 祐治 奥廣 充司

## 遠足

## 遠足について

## F1その1年間

F1 西野亜海

入学当初のモノクロの世界が、今ではカラフルな世界になりました。高専という学校にもすっかりなじんできました。この1年で1番の思いでに残っているのは高専祭です。中学校との文化祭とは違い、先輩達との関わりがとても多くありました。私達のクラスは、焼き鳥を売りました。夏休みに学校に集まって、どんな物を売るのか、どの値段で売るのか、とことん話し合いました。また、ダンボールや発泡スチロールを使って看板も作りました。高専祭当日には、多くの先輩や保護者の方々が焼き鳥を買ってくれたので嬉しかったです。先輩方の露店には、パフェ等様々な食べ物があつてどれもおいしそうでした。クラスが一番協力していた時、それが高専祭だったかもしれません。クラス最後の行事である遠足では、金沢に行きました。金沢駅から香林坊まで歩いたのでそれなりに疲れました。香林坊に着いてからは、それぞれが目的をもって散策しました。楽しい1日でした。帰りの電車では疲れて寝ていた人もいたようです。書きたいことは多々ありますが、このF1クラスで1年間、皆明るく楽しく過ごすことができ、とてもよかったです。皆本当に有難う。これからもよろしくね。



## ルービックキューブから始まった遠足

F2 中田優輝

私たちF2は、午前中はクラス行動で、午後は好きな人とグループ行動をして、金沢の町を歩いてきました。初めのクラス行動で行ったところは、石川県立歴史博物館です。歴史体験をしてみようということで、私は代表で侍大将の衣装を着ました。実際に着てみると鎧は見た目以上に重く、体の動きが制限されました。当時の侍の苦労が身に染みて伝わってきた、いい体験になりました。

午後のグループ行動では、大きな衝撃を受けました。それは4~5時間金沢の町を歩き続けることによって、歴史のある古い建物や店、商店街がまだ残っていることが分かったからです。このような場所に残る木造の家や手書きで書かれた看板からは人々の温もりが感じられました。改めて古い町を大切に残していくかなければいけないと気づかされました。

時代の流れにつれ、古い物は消え、町は華々しく、壮大に変わっていきますが、発展する町と昔の町の共存がうまく現実にできたらいいなと思います。



## コンテスト表彰式・JOINTフォーラム

## 第18回 マグネットコンテスト表彰式

福井高専は、平成25年2月6日、サバエシティーホテルにおいて「第18回マグネットコンテスト」入賞者の表彰式を執り行いました。

同コンテストは、ものづくり教育の一環として、レア・アースマグネットの世界的生産拠点である信越化学工業㈱武生工場の協力を得て平成7年度から実施しているもので、第18回となる今回は『生活・くらし』『健康・ふくし』『環境・エネルギー』の3つのテーマでアイデアを募集したところ、県内外の小中学生、高校生、高専生、大学生から総数2,131件ものアイデア作品が寄せられました。

厳正なる審査の結果、『生活・くらし』から最優秀賞「懐中電灯付き発電シャープペンシル」が、『環境・エネルギー』から最優秀賞「マグネットエレベーター」を含む5作品が入選し、受賞者の中から3名

が表彰式に招かれました。

表彰式に続き、高専ロボコン地区大会で特別賞を取った「Crab Pet (クラブペット)」のデモンストレーション並びに受賞者のスライドを使ったスピーチが行われ、会場を盛り上げました。

## 18回 マグネットコンテスト

主催／福井工業高等専門学校 協力／信越化学工業株式会社 後援／公財



表彰を受けた受賞者たち

## 福井工業高等専門学校「JOINTフォーラム2012」を開催

11月30日、サンドーム福井において「JOINTフォーラム2012」を開催しました。

本フォーラムは、本校と福井県内の企業及び産学官連携関係者との結びつきを深めることを目的として、地域連携テクノセンター主催で実施しているもので、今回は福井県の産学官連携担当者や地元企業、本校の教育研究支援組織「地域連携アカデミア」会員企業、本校教職員など約80名の参加がありました。

池田校長の開会挨拶に続き、福井県産業労働部参考による特別講演、アカデミア会員企業2社による企業ニーズ発表、同センター7部門から8名の教員による研究シーズ発表、同センターの活動報告が行われました。

企業ニーズ発表では、製造技術やものづくりに貢献する取組などを、研究シーズ発表では、若手教員が研究内容を紹介し、また会場内の展示ブースにおいて、シーズ・ニーズ発表者のほか、本校教員2名を加えた12件のポスターセッションが行われ、自由な意見交換が行われました。

閉会にあたって、同センター長から、本フォーラムをきっかけとした交流を行い、産学官連携活動の推進に寄与したいとの挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



◀挨拶する  
池田校長



ポスター発表▶

## クラシックコンサート

### 第4回 福井高専音楽の夕べ —クラシックコンサート—

企画室 吉田三郎

去る12月19日（水）午後6時から鯖江市響陽会館において、福井県出身のピアニスト大橋春奈氏とハープ奏者津野田圭氏をお招きし、「第4回福井高専音楽の夕べ—クラシックコンサート」を開催いたしました。これは、本校学生の情操教育とともに、地域社会への文化的貢献活動を図るために開かれたものです。本校学生・教職員及び地域の方々総勢530名の聴衆は、クリスマス間近の冬の雰囲気を味わいながら、ピアノとハープのハーモニーを満喫することができました。

コンサートは二部構成になっており、第一部では池田校長の挨拶の後、津野田氏によるハープソロ、ヘンデル作曲「ハープ協奏曲」から始まり、さらにピアノとのデュオでバッヘルベル作曲「カノン」が奏でられました。続く第二部ではバッハ作曲「主よ、

人の望みの喜びを」のデュオ演奏や、大橋氏のピアノソロによる、ショパン作曲「英雄ポロネーズ」等、計8曲の馴染み深い作品とアンコール1曲が奏でられ、静まり返った会場内には重厚且つ繊細な調べが響き渡りました。

今回演奏された大橋・津野田両氏はとても気さくで、温かい人柄があふれるトークを交えながら会を進行していただきました。第二部の冒頭ではハープの体験コーナーも実施され、ステージに上がった学生たちは初めてふれるハープから流れ出る音に感動していました。

本コンサートを開催するのにあたりましては、本校教職員の皆様を始め、学外の多くの関係者のご支援とご協力を頂きました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。



## 中学生の皆さんへ

中学校だより

## 地域・家庭との連携を生かした体験学習

越前市万葉中学校

本校は、平成8年に、誕生した比較的新しい学校であり、今年度の生徒数は415名である。越前市の南東に位置しており、田園地帯が広がり、山間部へとつながる自然豊かな地域にある。恵まれた環境の中、生徒は落ち着きがあり誠実である。本校には、地域・家庭との連携を生かした二つの教育活動がある。

2年生は「命」をテーマとした総合的な学習を行っている。この学習では、赤ちゃん抱っこ体験をクラスマックスに、妊婦体験・育児模擬体験・生命尊重について学ぶ道徳授業などの一連の活動を実施している。赤ちゃん抱っこ体験には、たくさんの親子が参加してくださる。赤ちゃんを抱かせてもらい、温かくわが子を育てているお母さんの姿を見つめ、苦労や楽しみや願いなどを聞くことにより、親と子の深いつながりや中学生になるまでに多くの人々に支えられて成長してきたことを実感し、生徒たちは自分を今日まで育ててくれた父母や家族への感謝の気持ちを強くする。

3年生は赤米栽培の農業体験をする。創立以来の伝統行事であり、校名の由来である「万葉集」に因み、古代米である赤米を栽培している。勤労の喜びを味わい、地域の歴史に思いを馳せて愛校心を育てている。また、赤米うどん、赤米せんべいを全校生徒に配付して地産地消の学習にも結びつけている。

地域と保護者の豊かな愛情に育てられ、生徒たちは、のびのびと充実した生活を送り、健やかに成長している。



## 平成25年度 入学者選抜について

平成25年度入学者選抜は、推薦選抜が1月20日(日)に本校で、学力選抜検査が2月24日(日)に本校、福井市地域交流プラザ、敦賀商工会議所及び滋賀大学経済学部で理科、英語、数学、国語、社会の5科目により実施された。

2月27日(水)午前10時に200名の合格者を本校掲示板及びホームページ上に掲載した。

合格者200名のうち、県外合格者は14名(滋賀県13名、石川県1名)であった。

## 平成25年度入学者選抜実施状況一覧

学科	募集人員	志願者数			合格者数			計
		推薦	学力検査	倍率	推薦	学力検査	工学基礎コース	
機械工学科	40人	18人	37(3)人	1.38倍	18人	22(2)人	7(1)人	40(2)人
電気電子工学科	40	26(2)	42(1)	1.70	18(2)	22	9	40(2)
電子情報工学科	40	26(8)	52(7)	1.95	18(7)	22(1)	8	40(8)
物質工学科	40	28(19)	33(15)	1.53	18(14)	22(12)	8(4)	40(26)
環境都市工学科	40	15(4)	37(6)	1.30	15(4)	25(6)	8(1)	40(10)
合計	200	113(33)	201(32)	1.57	87(27)	113(21)	40(6)	200(48)

(備考)(1)( )内の数字は、女子で内数。(2)倍率=志願者(推薦+学力検査)÷募集人員

## 学園通信

### 平成24年度 留学生との懇親会報告

**おかげさま。**

留学生主任 山田 孝禎

1月10日(木)、鯖江市国際交流センターをはじめ、日頃から本校留学生の活動にご尽力頂いている方々をお招きして、懇談・交流の場を設けさせて頂いた。改めて本校留学生が、多くの方々のお力添えのおかげで、Geshi, Sabae, Fukui, 916-8026 Japanで生活できているのだということを強く感じた。昨今の日本は、豊かであるが故の問題を多く抱え過ぎている気がする。そもそも問題として捉えるべきなのだろうかと考えることもある。世界人口の約半数はon the margin of subsistenceな生活を強いられている一方で、何不自由無い生活を送っているはどうしてかと振り返らされる。先人のおかげ、親のおかげ、先生のおかげ、世間様のおかげ…。たくさんの“おかげさま”があつての今の自分では?ということを考えさせられる。きっと異国の地で何もないところから始まる彼らの生活においても同様なことが言えるのかもしれない。“おかげさま”に精一杯の感謝と敬意を表している彼らの姿を見ながら、彼らに日本の“おかげさま”を広めてくれたら、どれだけ世界が豊かになるだろうかと。私にとっても、“おかげさま”を決して忘れてはならないと再認識できた貴重な場であった。



### 香港VTC学生來訪

**Hi! We are from Hong Kong!!**

国際交流委員会

平成25年1月14日(月)～18日(金)、香港VTCから短期留学生(女子4名)がやってきました。短い期間でしたが、専門科目の講義や実験などの一部を体験しました。本校の学生達に暖かく迎えられ、彼女らも大変嬉しそうでした。また、寮での生活体験ではチューター学生を中心となって交流し、それを見た他の寮生たちも話の輪に加わるなど何とも微笑ましい雰囲気だったようです。電気電子工学科での交流会では普段の授業や実験、そして企業見学など互いの活動について発表し合い、質疑応答も含めて大変な盛り上がりでした。事後も学生同士でFacebookなどを通じた交流に発展しているようです。



## 平成24年度 校長特別賞・校長賞受賞

### 校長特別賞

#### ●第47回全国高等専門学校体育大会(準優勝)

◎男子テニス(個人ダブルス)	石橋 一眞	(5M)	玉木 壱成	(4B)
----------------	-------	------	-------	------

### 校長賞

#### ●第47回北陸地区高等専門学校体育大会(優勝)

◎陸上(男子200m)	伊吹 哉太	(3EI)		
(男子5000m)	久島 憎	(3C)		
◎女子ソフトテニス (団体)	前川 華歩	(2E)	山下 茉莉	(2B)
	中川 結衣	(F5)	中本 邦子	(F2)
	西野 亜海	(F1)	坂腰 瑠奈	(F4)
	島田瑛実香	(2B)		
◎男子テニス(団体)	佐飛 辰弥	(4EI)	石橋 一眞	(5M)
	玉木 壱成	(4B)	村田 和樹	(4C)
	白崎 梨也	(4C)	森田 裕貴	(F2)
	片野 智仁	(4M)		
◎男子テニス(個人ダブルス)	石橋 一眞	(5M)	玉木 壱成	(4B)
◎女子卓球(団体)	田中 詩織	(3C)	朝倉ななみ	(3B)
	五十嵐春希	(2B)	高田和佳菜	(2B)
	南嶋 由枝	(2C)	北川真由子	(F4)
	藤田 瑞姫	(F5)	山形香央里	(4E)
	楠 優美子	(4EI)		
◎女子卓球(個人ダブルス)	田中 詩織	(3C)	藤田 瑞姫	(F5)
◎女子剣道(個人)	川渕 華綸	(3C)		

#### ●第45回全国高等専門学校サッカー選手権予選北信越大会(優勝)

龜井 孝弘	(5E)	柿木 大輔	(5E)	田辺 泰基	(5B)
大村 匠	(4EI)	早水 俊貴	(4M)	見寺 勇人	(4B)
森本 航	(3E)	村井 優介	(3M)	吉村 拓也	(3E)
前田 梨平	(3E)	山口 拓郎	(3E)	米倉 知宏	(3E)
森 恒太	(3B)	水上 裕太	(2M)	幸山 大輝	(2M)
三澤天佑人	(2EI)	東江 栄斗	(2B)	石坂 孝佑	(2B)
今中 就紀	(F1)	中村 泉生	(F2)	鈴木 優梨	(5EI)
●アイデア対決全国高専ロボコン2012東海北陸地区大会(アイデア賞)					
青柳 研汰	(4M)	牧田 幸大	(2E)	野尻紗也香	(5M)
五十嵐大知	(3M)				

## 平成25年度教育後援会総会

次のとおり総会を開催しますので保護者の方はご出席下さい。

期日 平成25年4月4日(木) 正午から

場所 本校 第一体育館

会次第

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 校長あいさつ

4. 報告事項

学校状況について

5. 審議事項

①平成24年度事業報告案及び決算案について

②平成25年度役員選出について

③平成25年度事業計画案及び予算案について

④その他

6. 閉会



# 高専生活のーコマ



香港VTC学生が本校を訪問



スキー・スノーボード体験ツアー(外国人留学生)



平成24年度校長特別賞・校長賞授与式(1)



平成24年度校長特別賞・校長賞授与式(2)



喫煙防止講演会



交通講話



高専は、高専制度創設50周年にあたり、「進化する高専」を標榜し、科学技術創造立国を担う感性と創造性が豊かな実践的技術者の育成を通して、地域社会と国際社会の発展に貢献します。

題字 池田大祐校長、マーク 本校ロゴマーク  
平成25年3月15日発行 ☆福井工業高等専門学校  
☆〒916-8507 鯖江市下司町 TEL 0778-62-1111